



一般社団法人 日本物流団体連合会  
Japan Association for Logistics and Transport

〒100-0013  
東京都千代田区霞が関3丁目3番3号  
全日通霞が関ビル5階  
TEL:03-3593-0139  
FAX:03-3593-0138  
URL:www.butstryu.or.jp

News Release

平成29年10月23日

## 第12回「物流連懇談会」を開催

(一社)日本物流団体連合会(田村修二会長)は、10月19日(木)、東京都千代田区の法曹会館2階「高砂の間」において、第12回「物流連懇談会」を開催した。この物流連懇談会は、物流業界の幅広い会員の参加を得て、会員への情報提供、会員相互の情報交換・交流のために行われており、今回は、全日本空輸株式会社執行役員貨物事業室長、株式会社ANA Cargo代表取締役社長の外山俊明氏より『航空貨物の今後の可能性とANAの戦略』と題する講演が行われた。参加者は、会員企業の代表者や幹部など約80名にのぼった。

冒頭、田村物流連会長による挨拶の後、講演会に入った。講演では、初めにANAグループの紹介が行われ、次にANA Cargoの会社概要の説明があり、2016年の国際貨物取扱重量実績で、日本企業で唯一世界第10位にランクインしていることが示された。

その後、航空貨物の特長には、品目特性、戦略的理由、時間的制約の3つのキーポイントがあり、重量ベースでは約9億5千万トンの内0.2%のシェアにもかかわらず、金額ベースでは約143兆円の内27%も占めており、高額品目の輸送が多いことを物語っているとの説明があった。

今後の航空貨物の可能性としては、最近話題になっている電気自動車部門EVの普及、人口知能(AI)の活用が益々進むことによる電子部品の輸送、越境Eコマースが新たな国際物流ニーズに発展していく可能性を秘めていることについて詳しく述べられた。

また、中型機でありながら航続距離が長く、低燃費等によりコスト、環境に優れた最新鋭の航空機材によりビジネスモデルが変化していること。更に、今後予定されている成田、羽田の首都圏空港の拡大が完成すると、東アジアの拠点として周辺国と競争ができる環境が整うことから、大きな期待を寄せているということであった。

一方、拡大するアジア域内でのシェアをどのようにキープするか、首都圏空港の拡大でどのように三国間貨物重量を増やさなければならないか、空港間競争を勝ち抜くためには利便性、コスト、マーケットの魅力の3つのキーポイントがあるとの説明があった。

最後にANA Cargoの事業戦略については、最新鋭機の導入、貨物便のネットワーク増計画、マーケットの開拓、沖縄ハブ戦略について、これまでの経緯とこれからの可能性について詳しく説明がなされた。

以上  
事務局 西城



田村会長の挨拶



講演する外山社長



講演会風景



活発な質疑応答